

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：学術フォーラム「2040年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき10の課題～イノベーション・越境研究・地域連携・国際連携・人材育成・研究環境～」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：なし
- 3 開催日時：令和5年7月2日（日）13時30分～17時30分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂 オンライン併用
- 5 開催趣旨：

人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野において最先端の研究に取り組む45歳未満の研究者で構成される日本学術会議若手アカデミーでは、今後20年のイノベーション創出を担う世代の研究者という当事者意識に基づき、科学・学術と社会をとりまく諸問題および若手研究者が直面する諸問題の解決に向けて、研究者コミュニティ・行政・産業界・市民社会・諸外国の若手アカデミーと対話・連携しながら幅広い活動を行ってきました。そして、越境研究・地域連携・国際連携・人材育成・研究環境の各領域から多義性を帯びたイノベーションの概念を整理し、イノベーション創出を阻む要因について議論してきました。そこで、本フォーラムでは、科学・学術と社会をとりまく諸問題の全体像を2040年という一つの時間的な焦点から俯瞰的に検討し、今後取り組むべき課題と解決に向けた方策についてさまざまな関係者とともに議論します。
- 6 参加人数：

講演者等：15名  
その他の参加者：195名（オンライン：162名、現地：33名）
- 7 特記事項：

今回の議論を踏まえて、見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を発出予定。